

Japan
6 - 127555

CLIPPEDIMAGE= JP406127555A

PAT-NO: JP406127555A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06127555 A

TITLE: GUSSET-TYPE FOOD CONTAINING PACKAGE BAG

PUBN-DATE: May 10, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

MIZUGUCHI, TAKESHI

KATO, KUMIKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

HOUSE FOODS CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP04300592

APPL-DATE: October 14, 1992

INT-CL_(IPC): B65D033/02; B65B009/12 ; B65D030/16 ;
B65D085/62

US-CL-CURRENT: 383/107,383/121

ABSTRACT:

PURPOSE: To reduce probability of a hole opened at a back seal
part or the like
by forming center part seal width including a back seal part and
internal folds
wider than seal width on both sides.

CONSTITUTION: A long object made of a package bag material
A formed in a
cylinder is end-sealed and cut at appropriate upper and lower

parts, and a seal
part B is formed at the lower part to provide a gusset-type
package bag. In
the seal part B, seal width of internal folds (a),(b) and a back seal
part (c)
is formed wider than seal width of both sides. An end-sealed part
thus formed
at the lower part of the package bag may less probably suffer
from a hole
opened at the internal folds or the back seal part, and also when
the beg
filled with light food is mounted on a plane with its whole body
vertical, the
bottom of the package bag has been formed to be an approximate
ellipse
comprising two arches. Therefore when the bag is stood on a
display shelf or
the like, it stands stably and well.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-127555

(43)公開日 平成6年(1994)5月10日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
B 6 5 D 33/02		6916-3E		
B 6 5 B 9/12		7130-3E		
B 6 5 D 30/16	A	9146-3E		
85/62		7445-3E		

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平4-300592

(22)出願日 平成4年(1992)10月14日

(71)出願人 000111487

ハウス食品株式会社

大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号

(72)発明者 水口 健

大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号

ハウス食品工業株式会社内

(72)発明者 加藤 久美子

大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号

ハウス食品工業株式会社内

(74)代理人 弁理士 須藤 政彦

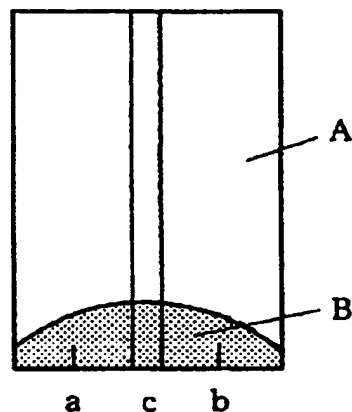
(54)【発明の名称】 ガゼットタイプの食品充填用包装袋

(57)【要約】

【目的】 スナック菓子等の軽食品用ガゼット包装袋を提供する。

【構成】 ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分において、包装袋の側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分、及び略中央に位置する背シール部分を含む中央部分のシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広く形成することを特徴とするガゼットタイプの食品充填用包装袋。当該シール部分を形成するために、シールバーのシール面が略アーチ型等に形成されたシールバーを使用する。

【効果】 背シール部分等で孔(トンネル)が明く恐れを確率的に低くすることができると共に、スナック類等の軽食品を充填した際に、底部がアーチ型を連結した略楕円形状になることから、陳列棚等における包装袋の転倒を防止できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分において、当該包装袋の背面の略中央に位置する背シール部分、及び当該包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分を含む中央部分のシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広く形成したことを特徴とするガゼットタイプの食品充填用包装袋。

【請求項2】 エンドシール部分の形状が、包装袋の上部及び／又は下部を底辺とした略アーチ型である前記請求項1記載のガゼットタイプの食品充填用包装袋。

【請求項3】 ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分をシールバーによりシールしたガゼットタイプの食品充填用包装袋において、シールバーとして、そのシール面がアーチ型に形成されたアーチ型シールバーを使用することにより、当該包装袋の背面の略中央に位置する背シール部分、及び当該包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分を含む中央部分のシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広く形成したことを特徴とするガゼット

タイプの食品充填用包装袋。

【請求項4】 ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分を包装袋の上部及び／又は下部を底辺とした略アーチ型に形成するために使用される前記請求項3記載のアーチ型シールバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、スナック菓子等の軽食品を充填し、包装するためのガゼットタイプの食品充填用包装袋に関するものであり、さらに詳しくは、ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分の形状、構造を改善し、当該シール部分をスナック菓子等の軽食品を充填した際に包装袋の底部がアーチ型を連結した略楕円形状になって、包装袋を陳列棚等に安定に起立させることができるように形成したことを特徴とする新タイプのガゼットタイプの食品充填用包装袋、及び当該包装袋のシール部分を形成するために使用するシールバーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、スナック菓子等の軽食品を充填し、包装してなる軽食品充填包装袋は、通常、連続的に供給される筒状に形成された長尺の包装材料の下部をエンドシールすると共に、スナック菓子等の軽食品を充填し、次いで上部をエンドシールした後、カットすることにより製造されており、シール時の包材の形状により、筒状体の上部、及び下部の開口部をそのまま密着シールしたヒーロータイプの包装袋と、筒状体の上部、あるいは下部のエンドシール部分において、当該筒状体、すなわち当該包装袋の両側面を適宜幅に内側に折り込んで、内側の折り目部分を形成した状態でエンドシールしたガゼ

ットタイプの包装袋とが、主なものとして知られている。

【0003】これらの包装袋のうち、ヒーロータイプの包装袋は、一般に、ソフトで比較的カサの大きいポテトスナック等の軽食品の包装袋として広く使用されており、また、ガゼットタイプの包装袋は、袋の両サイドに一定の幅がとれることから、主に、陳列棚等に起立させることを目的として広く使用されており、例えば、各種の膨化スナック菓子等はもとより、当該軽食品に限らず、ミルクココア、アイスコーヒー等の飲料粉末等、種々の食品の包装袋として広く利用されている。

【0004】しかるに、従来のガゼットタイプの包装袋を例として、当該包装袋を用いた製品をみると、例えば、ポテトスナック、アイスコーヒー粉末、膨化スナック菓子等に通常使用されている包装袋の場合は、包装袋の上部もしくは下部のエンドシール部分において、背シールの部分、及び包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分のシール部分とが4枚重ねになっているために、エンドシールする際に、シールバーの圧力がシール面全体に均一にかかりにくく、また、両サイドから中央部分に至る全体のシール幅が均一であることから、図4及び図5に示すように、前記内側の折り目部分や背シール部分で孔（いわゆるトンネル）が明く恐れが確率的に高くなるという問題点を有していた。

【0005】そして、孔（トンネル）が明いた場合には、特に、スナック菓子等の軽食品においては、外気が袋内に通気して中の食品が湿ったり、袋内部のエアが抜けて輸送中に袋内の食品が割れやすくなるなど、商品価値を失う原因となった。

【0006】その他、ミルクココア等の飲料粉末に通常使用されている包装袋の場合は、包装袋の下部のエンドシール部分において、内側の折り目部分のシールが4枚重ねで、さらに、背シールの部分が4枚重ね（残りの中央部分は2枚重ね）になっているもの、また、内側の折り目部分のシールが4枚重ねで、背シールの部分が6枚重ね（残りの部分は2枚重ね）になっているもの等がみられるが、いずれのものも、前記の場合と同様に、エンドシールする際に、シールバーの圧力がシール面全体に均一にかかりにくく、また、両サイドから中央部分に至るシール幅が均一であることから、前記内側の折り目部分や背シール部分で孔（トンネル）が明く恐れが確率的に高くなるという問題点を有していた。

【0007】一方、このようなガゼットタイプの包装袋を用いた製品のうち、ミルクココア、アイスコーヒー等の飲料粉末の包装袋の場合は、充填される食品自体に重量があり、かつ包装袋の両サイドが比較的幅広く形成されており、包装袋の底部も幅広く形成し得ることから、当該包装袋を陳列棚等において全体として縦方向に安定に起立させることができる。

【0008】しかしながら、スナック類等の軽食品の包

装袋の場合、包装袋の両サイドが比較的狭く形成されているものは、中身が軽いので当該包装袋を安定に起立させることが困難であり、すぐに転倒して横に寝てしまうことから、これらの製品を店頭の販売棚に陳列し、販売するに際し、製品のフェイスが顧客の方に確実に向かないので、陳列効果が得にくく、また、包装袋の両サイドが比較的広く形成されているものは、起立させることは可能であるが、奥行きを長く取っているため、製品のフェイス面がその分、狭くなっており、十分な陳列効果が得にくい、等の包装袋の形状もしくは構造に起因する問題点があった。

【0009】このように、食品包装袋の中でも、とりわけスナック食品等の軽食品の包装袋は、包装袋の上部もしくは下部のエンドシール部分のシール幅がせいぜい約1cm程度の狭いものであり、かつ均一幅に形成されたものが大部分であり、一部において、ミルクココア等の飲料粉末等の包装袋の底部のシール部分にみられるように、当該シール幅が、包装袋の中央部分に比較して両サイドの部分が幅広に形成されている、いわゆる逆アーチ型のものが存在する。

【0010】しかしながら、当該逆アーチ型のエンドシール部分を有する包装袋においても、包装袋の両側面を内側に折り込んだ内側の折り目部分、及び背シール部分を含む中央部分のシール幅は、通常のものと同じ程度に狭いものであり、前記通常のシール部分が均一幅に形成されている通常のガゼットタイプの包装袋の場合と同様に、内側の折り目部分や背シール部分で孔（トンネル）が明く恐れが確率的に高くなること、及びスナック菓子等の軽食品を充填した場合、底部の座りが悪く、商品販売用陳列棚において安定に起立させることが困難であり、前記理由により陳列効果が得にくいという問題点があった。

【0011】

【発明が解決しようとする課題】そこで本発明者らは、このような従来のスナック菓子等の軽食品を充填する食品充填用包装袋の各種問題点を解決することを目標として鋭意研究を積み重ねた結果、当該包装袋のシール部分のシール形態を変更することにより、所期の目的を達成し得ることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0012】すなわち、本発明は、従来のスナック菓子等の軽食品を充填する食品充填用包装袋にみられる当該包装袋の上部あるいは下部のエンドシール部分で孔（トンネル）が明く恐れが確率的に低いガゼットタイプの食品充填用包装袋を提供することを目的とするものである。

【0013】また、本発明は、ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部あるいは下部のエンドシール部分における包装袋の両側面の内側の折り目部分や背シール部分で孔（トンネル）が明きにくいガゼットタイプの食品充填用包装袋を提供することを目的とするものである。

【0014】また、本発明は、ガゼットタイプの包装袋に軽食品を充填した際に、底部の形状がアーチ型を連結した略楕円形状になるように形成したガゼットタイプの食品充填用包装袋を提供することを目的とするものである。

【0015】また、本発明は、前記包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分のシール幅が、包装袋の両サイドの部分の幅に比較して、その中央部分の幅が広くなるように形成したガゼットタイプの食品充填用包装袋を提供することを目的とするものである。

【0016】さらに、本発明は、前記包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分を略アーチ型にシールするために使用されるシール面が略アーチ型に形成されたシールバーを提供することを目的とするものである。

【0017】

【課題を解決するための手段】このような目的を達成するための本発明の構成は、次の（１）～（４）の技術的手段からなるものである。

（１）ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分において、当該包装袋の背面の略中央に位置する背シール部分、及び当該包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分を含む中央部分のシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広く形成したことを特徴とするガゼットタイプの食品充填用包装袋。

【0018】（２）エンドシール部分の形状が、包装袋の上部及び／又は下部を底辺とした略アーチ型である前記（１）記載のガゼットタイプの食品充填用包装袋。

【0019】（３）ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分をシールバーによりシールしたガゼットタイプの食品充填用包装袋において、シールバーとして、そのシール面がアーチ型に形成されたアーチ型シールバーを使用することにより、当該包装袋の背面の略中央に位置する背シール部分、及び当該包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分を含む中央部分のシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広く形成したことを特徴とするガゼットタイプの食品充填用包装袋。

【0020】（４）ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分を包装袋の上部及び／又は下部を底辺とした略アーチ型に形成するために使用される前記（３）記載のアーチ型シールバー。

【0021】続いて本発明の構成について詳細に説明する。本発明は、前記したように、ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分の構成に特徴を有するものであり、包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分において、包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分、及び包装袋の背面の略中央に位置する背シール部分を含む中央部分のシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広く

5

形成した点にその特徴を有するものである。

【0022】当該ガゼットタイプの包装袋について具体的に説明すると、当該包装袋における両側面を折り込んだ内側の折り目部分の長さ、すなわち折り込みの幅は、特に制限されるものではなく、適宜の幅に形成することができる。当該タイプの包装袋は、通常、筒状に形成された長尺物からなる連続包装袋材料を適宜の上下位置でエンドシール、及び切断して形成されるものであり、通常、包装袋の背面(裏側)の略中央部分の位置に背シール部分が形成されているが、本発明は、当該タイプのものに限らず、当該背シールの部分が包装袋のサイド部分等に位置するものであっても、適宜適用することができる。

【0023】包装袋の材料としては、特に制限されるものではないが、代表的なものとしては、OPP(延伸ポリプロピレン)/VMCPP(蒸着キャストピングポリプロピレン)、OPP/VMPET(蒸着ポリエチレンテレフタレート)/CPP、PET/VMPET/CP P等の包装袋材料が例示される。

【0024】これらの材料からなる包装袋の上部及び/又は下部をエンドシールするには、包装袋の上部及び/又は下部の両側面を内側に折り込み、次いで内側の折り目部分と背シールの部分をそれぞれ重層し、シール部分にCPP等の適宜のシーラント材を使用して常法によりシール処理する方法等が採用される。この場合、内側の折り目部分を4重に重層してシールするタイプのものと、当該内側の折り目部分においては、その内側のみを2重にシールするタイプのもの等があるが、いずれのタイプのものでも適宜使用可能である。

【0025】シール処理する際の温度、圧力、時間等のシール条件については、特に制限されるものではないが、通常、120~240℃、0.2~1.5秒程度で、包装材料の種類、厚さ等に応じた適宜の圧力条件が適宜選択される。

【0026】本発明のガゼットタイプの食品充填用包装袋を製造する際に使用される包装機としては、適宜のタイプのものが使用可能であり、特に制限されるものではないが、シール部は背シール、エンドシールとも、エアシリンダー、機械式等の駆動部により駆動されるシールバーを具備したタテ型ガゼット包装機、及びヨコ型ガゼット包装機等、一般的にスナック菓子、ラーメン等の塊を充填する場合に使用されている適宜のタイプの装置を使用することができる。

【0027】また、シール部分のシールの形態としては、背シール、エンドシールとも、当該シール面に横筋が形成されるギザ歯シール、及び、シール部分がベタに形成されるベタシール、その他、エンボス、網目等、いずれのタイプのものも適宜利用可能である。

【0028】包装袋のシール部分のシール形態は、包装袋の上部及び/又は下部において、包装袋の側面を内側

6

に折り込んだ内側の折り目部分、及び背シール部分のシールを幅広く形成することが必要であることから、包装袋の上部及び/又は下部のエンドシール部分の両サイドのシール幅に比較して中央部分のシール幅を幅広く形成するものである。

【0029】当該エンドシール部分の具体的形態としては、図1に示されるように、包装袋の上部及び/又は下部のエンドシール部分において、当該上部及び/又は下部の端部を底辺とする略アーチ型に形成したもの、また、図2に示されるように、内側の折り目部分、及び背シール部分を含む中央部分の略長方形の範囲において、シール幅を両サイドに比較して幅広く形成したもの、及び、図3に示されるように、内側の折り目部分、及び背シール部分を含む一定の範囲のみにおいて、部分的にそのシール幅を幅広く形成したもの等が代表的なものとして例示される。

【0030】このように、本発明のガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び/又は下部のエンドシール部分の形態は、包装袋の略中央部分に位置する前記内側の折り目部分、及び背シール部分等をカバーする範囲のシール部分を両サイドに比較して幅広く形成したものであれば、特に、その形態は制限されるものではなく、適宜の形態のものを使用することができる。

【0031】以上のようにガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び/又は下部におけるエンドシール部の形態を特定することより、本発明の包装袋は、従来完全に防止することが困難であった前記内側の折り目部分、及び背シール部分における孔(トンネル)の発生を確率的に低くすることが可能となり、特に内側の折り目部分を具備するガゼットタイプの包装袋の場合において、その製造時における品質管理をより確実なものとすることができる。

【0032】また、包装袋の下部のエンドシール部分において、その中央部分のシール幅を幅広く形成することにより、スナック類等の軽食品を充填し、そのまま陳列棚等の平面上に縦に載置した場合に、包装袋の底部がアーチ型を連結した略楕円形状になって、起立させるときに邪魔になるエンドシール部分が持ち上がるので安定して起立させることができると共に、包装袋の上から多少の圧力がかかっても、当該圧力に対して比較的安定性が高くなる。さらに、包装袋の両サイドが比較的狭く形成されていても座りが良く、全体を安定に起立させることができるようになるので、小さな容量の包装袋でも製品のフェイス面も広くとることができ、量販店などの陳列棚での陳列効果が高くなる。従って、従来問題とされていた包装袋の転倒、及び陳列効果の低下を防止することができる。

【0033】このような本発明のガゼットタイプの食品充填用包装袋の特性は、従来の通常のカゼットタイプの包装袋の場合には、得られないものであり、前記アーチ

型等のシール形態を採用することによってはじめて得られる本発明の包装袋に特有なものである。

【0034】本発明の包装袋は、特に、ガゼットタイプの包装袋の中でも、下部のエンドシール部分において、内側の折り目部分と背シール部分が4枚重ねに形成されている通常のポテトスナック、膨化スナック等の軽食品に使用されているタイプのガゼット包装袋はもとより、背シール部分がサイド方向に位置し、中央のシール部分が2枚重ねに形成されている飲料粉末等に使用されるタイプのガゼット包装袋、及び、背シール部分、及び内側の折り目部分を重層せず、中央部分のみが2枚重ねに形成されている通常のコーヒー粉末等に使用されるタイプのガゼットタイプ、適宜のタイプの包装袋に適用することが可能である。また、本発明は、このようなタイプのガゼット包装袋だけに限定されるものではなく、ガゼットタイプの包装袋であればその種類を問わず、適宜のタイプの包装袋に適用することも可能である。

【0035】さらに、本発明の包装袋の上部及び／又は下部におけるエンドシール部分を形成するためのシール機のシールバーのシール面の形は、前記包装袋のシール部分を前記アーチ型に形成し得るタイプのもの、すなわちシールバーのシール面がアーチ型に形成されたものが好適に使用されるが、もちろん、当該形状に限定されるものではなく、前記シール部分の形態に整合した形態のものであればいずれのものも適宜使用可能である。

【0036】

【実施例】次に、図面に基づいて本発明の実施例について具体的に説明する。図1～3は、OPP（延伸ポリプロピレン）／VMCPP（蒸着キャストポリプロピレン）からなり筒状に形成された包装袋材料Aからなる長尺物を、その上部、及び下部の適宜の位置でエンドシール、及び切断し、下部にシール部分Bを形成したガゼットタイプの包装袋を示す。また、図4は、エンドシール部分における内側の折り目部分の断面を、図5は、エンドシール部分における背シール部分の断面を、それぞれ、示す。

【0037】下部のシール部分のa、bは、包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分であり、当該内側の折り目部分は、通常、左右2箇所に背シールをはさんで対称に形成される。包装袋の略中央に位置する縦長のシール部分cは、背シールであり、通常、当該背シールは、包装袋の背面（裏側）の中央に形成されるが、当該背シール部分を、サイド方向、すなわち右もしくは左側面方向に位置させることも適宜可能である。dは、4枚重ね部（内側の折り目部分）、eは、2枚重ね部、fは、4枚重ね部（略中央に位置した背シール部分）、gは、孔（トンネル）が明く恐れのある部分、の各断面を示す。

【0038】当該ガゼットタイプの包装袋の下部のシール部分Bは、前記内側の折り目部分a、b、及び背シ

ル部分cのシール幅を、両サイドのシール幅よりも幅広に形成させたものであり、当該シール部分は、当該内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cを含む中央部分全体を、常法によりシールバーによりシールすることによって形成されるが、当該内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cを含む部分だけを幅広にシールすることも適宜可能である。

【0039】当該シール部分の形状について、図1～3に基づいて具体的に説明すると、図1は、包装袋の下部の端部を底辺として略アーチ型に形成したものであり、また、図2は、これを略長方形に形成したものであり、さらに、図3は、これを前記内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cの部分のみを含む一定の範囲のみに形成したものである。

【0040】当該包装袋のエンドシールは、エアーシリンダー駆動部により駆動されるシールバーを具備したシール機を使用して、約180℃、0.5秒のシール条件で、常法により実施した。シールバーは、それぞれ、そのシール面を、それぞれ、図1～3に示した前記シール部分を形成し得る形状に形成したもので、シール部分の表面形態がベタ状態にシールされるタイプに形成したものを使用した。

【0041】包装袋の下部に形成されたエンドシール部分は、前記内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cを含む中央部分のシール幅が、両サイドのシール幅より幅広に形成されているので、前記内側の折り目部分や背シール部分で孔（トンネル）が明く恐れが確率的に低く、かつスナック菓子等の軽食品を充填し、全体を縦にして平面上に載置した際に、包装袋の底部が2つのアーチ型を連結してなる略楕円形状になるように形成されているので、包装袋を陳列棚等に起立させた際に、座りが安定、かつきわめて良好な包装袋が得られた。

【0042】

【発明の効果】以上詳述したとおり、本発明は、スナック菓子等の軽食品を充填するガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分において、包装袋の両側面を内側に折り込んで形成される内側の折り目部分、及び背シール部分を含む中央部分のシール幅を両サイドのシール幅よりも幅広く施したことを特徴とする包装袋、及び当該包装袋のエンドシール部分を形成するためのシールバーに係るものであり、従来、当該ガゼットタイプの食品充填用包装袋の上部及び／又は下部のエンドシール部分、すなわち前記内側の折り目部分や背シール部分で孔（トンネル）が明く恐れが確率的に高くなることを防止できる効果を有する。

【0043】また、本発明のガゼットタイプの食品充填用包装袋は、スナック類等の軽食品を充填した際に、底部が2つのアーチ型を連結した略楕円形状になることから、包装袋を陳列棚等に起立させた場合に、包装袋の両サイドが比較的狭く形成されていても、全体として座り

が良く、よって包装袋の転倒を防止し、かつ製品のフェイス面に関する陳列効果の低下を防止できる効果を有する。

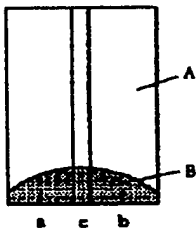
【図面の簡単な説明】

【図1】ガゼットタイプの包装袋の下部のエンドシール部分において、内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cを含む中央部分のシール部分を略アーチ型に形成した食品充填用包装袋の説明図である。

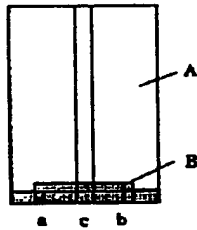
【図2】ガゼットタイプの包装袋の下部のエンドシール部分において、内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cを含む中央部分のシール部分を略長方形に幅広に形成した食品充填用包装袋の説明図である。

【図3】ガゼットタイプの包装袋の下部のエンドシール部分において、内側の折り目部分a、b、及び背シール部分cを含むシール部分のみのシール幅を部分的に幅広に形成した食品充填用包装袋の説明図である。

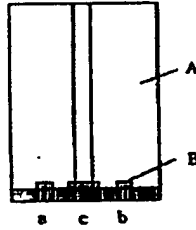
【図1】



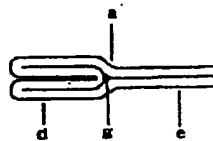
【図2】



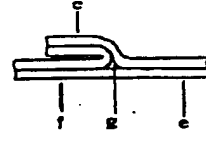
【図3】



【図4】



【図5】



【図4】エンドシール部分における内側の折り目部分の断面の説明図である。

【図5】エンドシール部分における背シール部分の断面の説明図である。

【符号の説明】

- A ガゼットタイプ包装袋
- B エンドシール部分
- a 左サイドに形成された内側の折り目部分
- b 右サイドに形成された内側の折り目部分
- c 略中央に位置した背シール部分
- d 4枚重ね部（内側の折り目部分に形成される）
- e 2枚重ね部
- f 4枚重ね部（略中央に位置した背シール部分に形成される）
- g 孔（トンネル）が明く恐れのある部分